平成24年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月9日

上場会社名　株式会社 日本マイクロニクス　　上場取引所　大
コード番号　6871　URL　http://www.mjc.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 長谷川　正義
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役企画管理本部長　(氏名) 藤崎　直子　TEL 0422-21-2665

四半期報告書提出予定日　平成24年8月10日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年9月期第3四半期の連結業績(平成23年10月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期第3四半期	18,138	△11.1	△1,413	―	△1,460	―	△2,664	―
23年9月期第3四半期	20,400	19.8	416	―	344	―	217	―

(注)包括利益　24年9月期第3四半期　△2,749百万円　(―%)　23年9月期第3四半期　645百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年9月期第3四半期	△140.29	―
23年9月期第3四半期	11.14	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年9月期第3四半期	30,329	14,318	44.6	712.44
23年9月期	35,563	17,232	46.5	870.06

(参考) 自己資本　24年9月期第3四半期　13,530百万円　23年9月期　16,523百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年9月期	―	0.00	―	10.00	10.00
24年9月期	―	0.00	―		
24年9月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年 9月期の連結業績予想(平成23年10月 1日～平成24年 9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,000	△17.4	△1,960	―	△2,050	―	△4,510	―	△237.48

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年9月期3Q	20,012,658 株	23年9月期	20,012,658 株
② 期末自己株式数	24年9月期3Q	1,021,592 株	23年9月期	1,021,592 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年9月期3Q	18,991,066 株	23年9月期3Q	19,491,112 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8
（５）セグメント情報等 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間における半導体市場は、タイ洪水によるサプライチェーンの混乱に始まり、終息の頃には欧州経済の停滞や中国経済の鈍化による需要の弱さが顕著化したことで、期待のスマートフォンやタブレット端末、新ＰＣ等需要にも先行き不透明感が高まり、供給も調達も活発化しなかったことから、低調に推移いたしました。

ＦＰＤ市場におきましても、前述の経済環境を背景に、薄型テレビ等最終製品の需要が期待に届かなかったことから、パネルメーカーでは新型高精細液晶パネルや有機ＥＬパネル等新たな技術への動きも現れてきましたが、基本的に生産及び設備投資の抑制が継続したことで、力強さを欠いて推移いたしました。

また、この期間において、主要顧客である国内ＤＲＡＭメーカーが２月末の経営破たん後、速やかに再始動いたしましたが、他の国内半導体メーカーや液晶パネルメーカーにおいて今後実施する事業構造改革を発表する等、当社グループにとっては、益々厳しい事業環境を突きつけられることとなりました。

このような状況の下、当社グループは受注の獲得、売上の拡大、新技術や新製品の開発に精力的に取組み、生産の効率化等原価低減にも努めてまいりましたが、現在の売上高に対する固定的費用の水準は高く、損失を計上いたしました。また、この問題解決のため、当社グループでは６月22日に公表いたしました通り、「事業構造改革の実施」に着手しており、これに伴う国内一部工場の固定資産の減損損失等として、特別損失1,073百万円を計上いたしました。なお、人員合理化に関する費用は第４四半期にて特別損失として計上する予定であります。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高18,138百万円（前年同期比11.1%減）、営業損失1,413百万円（前年同期は416百万円の営業利益）、経常損失1,460百万円（前年同期は344百万円の経常利益）、四半期純損失2,664百万円（前年同期は217百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①　半導体機器事業

プローブカードは、期初、高水準の前期末受注残高を背景に売上高を伸ばしましたが、デバイスメーカーの生産調整開始とともに需要が減少、年明け以降は市場回復の遅れが影響し、受注・売上が低迷する状況となりました。このような売上高の伸び悩みに対し、プローブカードの高機能化に伴う研究開発費やサービス費等固定的費用の水準が上昇したことにより、営業利益は低調に推移いたしました。

この結果、売上高は15,126百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は299百万円（前年同期比76.4%減）となりました。

②　ＦＰＤ機器事業

ＬＣＤ検査装置は、パネルメーカーの設備投資抑制の下、新規装置の需要が大幅に減少し、改造を中心とした受注・売上となりました。プローブユニットにおきましては、中小型高精細パネル向けを中心に需要がありましたが、基本的に生産調整が継続しているため、低水準な受注・売上となりました。太陽電池検査装置は、業界環境の悪化から設備投資案件がほぼ消失しており、受注・売上ともに振るいませんでした。営業利益に関しては、低水準な売上高が固定費負担を吸収しきれず、損失を計上いたしました。

この結果、売上高は3,011百万円（前年同期比37.9%減）、営業損失は622百万円（前年同期は225百万円の営業利益）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,233百万円減少し、30,329百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少2,811百万円、現金及び預金の減少1,320百万円、減損処理等による有形固定資産の減少894百万円等によるものであります。

（負債）

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,319百万円減少し、16,011百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少2,302百万円等によるものであります。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,914百万円減少し、14,318百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上等による利益剰余金の減少2,854百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年６月22日付「「事業構造改革の実施」及びそれに伴う「特別損失の発生」並びに「業績予想の修正」に関するお知らせ」から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成23年９月30日)	当第３四半期連結会計期間 (平成24年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,379	7,058
受取手形及び売掛金	10,347	7,536
製品	330	358
仕掛品	2,368	2,153
原材料及び貯蔵品	527	622
その他	461	796
貸倒引当金	△74	△67
流動資産合計	22,340	18,458
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,795	4,239
機械装置及び運搬具（純額）	2,480	2,106
その他（純額）	2,725	2,760
有形固定資産合計	10,001	9,107
無形固定資産	1,111	1,053
投資その他の資産		
投資有価証券	1,800	1,413
その他	526	514
貸倒引当金	△217	△217
投資その他の資産合計	2,109	1,710
固定資産合計	13,222	11,871
資産合計	35,563	30,329
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,946	4,644
短期借入金	3,093	3,864
未払法人税等	269	60
賞与引当金	432	176
製品保証引当金	359	192
その他	1,553	1,698
流動負債合計	12,655	10,637
固定負債		
社債	210	180
長期借入金	3,618	3,344
退職給付引当金	1,101	1,316
長期未払金	194	116
その他	551	416
固定負債合計	5,675	5,374
負債合計	18,330	16,011

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成23年９月30日)	当第３四半期連結会計期間 (平成24年６月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,018	5,018
資本剰余金	5,769	5,769
利益剰余金	6,497	3,642
自己株式	△953	△953
株主資本合計	16,332	13,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	686	555
為替換算調整勘定	△495	△503
その他の包括利益累計額合計	190	51
新株予約権	134	190
少数株主持分	574	597
純資産合計	17,232	14,318
負債純資産合計	35,563	30,329

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成22年10月１日 至　平成23年６月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成23年10月１日 至　平成24年６月30日)
売上高	20,400	18,138
売上原価	14,681	13,801
売上総利益	5,719	4,336
販売費及び一般管理費	5,303	5,750
営業利益又は営業損失（△）	416	△1,413
営業外収益		
受取利息	15	20
受取配当金	12	8
受取賃貸料	24	26
その他	40	26
営業外収益合計	92	81
営業外費用		
支払利息	82	73
訴訟関連費用	16	16
支払保証料	－	21
為替差損	55	16
その他	10	1
営業外費用合計	165	128
経常利益又は経常損失（△）	344	△1,460
特別利益		
固定資産売却益	1	0
貸倒引当金戻入額	177	－
新株予約権戻入益	－	2
その他	2	0
特別利益合計	181	2
特別損失		
固定資産除却損	7	4
ゴルフ会員権評価損	－	12
投資有価証券評価損	－	94
減損損失	－	961
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	9	－
寄付金	10	－
その他	1	0
特別損失合計	29	1,073
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	496	△2,531
法人税、住民税及び事業税	124	54
法人税等調整額	58	23
法人税等合計	183	78
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	313	△2,609
少数株主利益	96	54
四半期純利益又は四半期純損失（△）	217	△2,664

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成22年10月１日 至　平成23年６月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成23年10月１日 至　平成24年６月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	313	△2,609
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	288	△131
繰延ヘッジ損益	2	－
為替換算調整勘定	41	△8
その他の包括利益合計	332	△139
四半期包括利益	645	△2,749
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	542	△2,803
少数株主に係る四半期包括利益	102	53

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
（セグメント情報）
Ⅰ 前第３四半期連結累計期間（自 平成22年10月１日 至 平成23年６月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１．	四半期連結損益計算書計上額（注）２．
	半導体機器事業	ＦＰＤ機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,550	4,850	20,400	－	20,400
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	15,550	4,850	20,400	－	20,400
セグメント利益	1,269	225	1,495	△1,079	416

（注）１．セグメント利益の調整額△1,079百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第３四半期連結累計期間（自 平成23年10月１日 至 平成24年６月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１．	四半期連結損益計算書計上額（注）２．
	半導体機器事業	ＦＰＤ機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,126	3,011	18,138	－	18,138
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	15,126	3,011	18,138	－	18,138
セグメント利益又は損失（△）	299	△622	△323	△1,089	△1,413

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額△1,089百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「半導体機器事業」セグメントにおいて、熊本テクノロジーラボラトリーの使用を休止する意思決定を行ったことにより、将来の使用が見込まれていない遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（338百万円）として特別損失に計上しております。

また、「ＦＰＤ機器事業」セグメントにおいて、当該事業のキャッシュ・フローが継続してマイナスとなっており、将来についても当該事業の事業用資産のキャッシュ・フローの見積期間内においてマイナスになると見込まれることから、ＦＰＤ機器事業にかかる資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（623百万円）として特別損失に計上しております。